

しいのき



東京都指定「江古田の獅子舞」

館長 比田井 克仁

平成29年3月9日「江古田の獅子舞」が東京の代表的な伝統芸能という評価を得て、東京都無形民俗文化財に指定されました。三匹の一人立ちの獅子が、四神（朱雀・青竜・白虎・玄武）に囲まれた、芝原しばらという土壇の上で舞う、非常に古い形式を残した獅子舞です。800年前から続いているとも伝えられていますが、約350年前に存在していたことは確かです。

武蔵野の一部であった江古田村は、明治維新・大正期の宅地化・終戦後の都市化の中で、大都市東京の一角になりました。このような中、五穀豊穡・病魔退散を願う「江古田の獅子舞」が、農業を行わなくなった今日まで、完全な形で伝えられてきたことは奇跡といえましょう。これはひとえに、地域の方々の約350年にわたる不断の努力によるものです。その根底にはなくしてはならない大切なものであるという「心」があり、それが年月を支えてきたものなのでしょう。「江古田の獅子舞」は、その「心」を行列や舞、その他の儀礼といった抽象的な表現の中に示してくれているように思います。

無形民俗文化財の奥深さを改めて感じる今日この頃です。

文化財よもやま話

大地に眠る歴史

鷺宮囃子の衣裳と道具

中野区の遺跡（15）

中野区には鷺宮地域に「鷺宮囃子」、江古田地域に「江古田の獅子舞」があり、鷺宮囃子は8月末土日、江古田の獅子舞は10月第一日曜に祭礼がおこなわれています。

2015年、鷺宮囃子保存会から神楽の衣裳と道具約100点の寄贈をうけ、8月18日(金)～9月20日(水)に開催した「鷺宮囃子～新寄贈衣裳の紹介～」では、衣裳と道具の他、舞台にかけるための大きな祝い幕も展示しました。

お祭りで演奏するお囃子は5人囃子とも言い、太鼓1人、締め太鼓2人、鉦1人、笛1人です。厄除けや五穀豊穡を祈って獅子舞を舞い、さらに面や衣裳をつけて神楽を舞うこともあります。

鷺宮では近世後期から世田谷、大田区からお囃子と神楽が伝え広められ、さらに明治初期頃に阿佐ヶ谷にいた「田淵の初っさん」と呼ばれた横川初五郎が笛や太鼓、踊りを鷺宮に教えたと言われています。

衣裳は昭和初期頃に作られたので、だいぶ傷みや汚れも見受けられましたが、現在使われているものとは違い、落着きのある色調とデザインです。衣裳がどの神楽の演目で使われていたのか定かでないものが多いのですが、2割以上を占めていたのが「もどき」と呼ばれるひょっとこのようなお面をつけたものが着る衣裳でした。また、七福神の一人の大黒天や、猿、能の演目である「三番叟」の衣裳もありました。道具は手作りのもも多く、創意工夫をこらし、手作りできまかなう心意気が感じられました。



三番叟の衣裳

前号に引き続き、今から約600～300年前（15世紀～17世紀末）に、現在の江古田1丁目付近に営まれた集落、御嶽遺跡についてのお話です。

今回は、歴史史料や出土遺物から見えてくる、御嶽遺跡の住人達についてご紹介します。

御嶽遺跡の発掘調査では、明の青磁や天目茶碗など、貴重で高価な茶器が多く出土しました。農村の集落で見つかることは珍しいこのような品々の存在は、この御嶽の集落に茶の湯を嗜む教養高い人々が住んでいたことを示しています。



左 御嶽遺跡出土天目茶碗



右 天正19年江古田村検地帳（中野区指定有形文化財）

そこで、中野区立歴史民俗資料館が所蔵する天正19（1591）年の江古田村の検地帳をひもとくと、土地所有者の中に、図書・兵庫・将賢など武士階級の人の名がわかりました。江古田村には、多くの帰農武士が農民と一緒に暮らしていたのです。また、江古田村絵図から、当時、江古田村の名主を務めた對馬も、御嶽遺跡のあたりに居住していたと推測されています。御嶽遺跡は、江古田村の中心的な集落だったようです。出土した高価な茶器は、名主やもと武士だった上層農民達が所有していたものと考えられます。

ところで、江古田にかつて御嶽神社という古い神社があったことを御存知でしょうか。大正2年に江古田の氷川神社に合祀されるまで、ちょうど御嶽遺跡の近くにありました。そして、本号の表紙でも紹介されている江古田の獅子舞は、かつてはその御嶽神社に奉納されていました。江古田の獅子舞の由来については諸説あり真偽のほどはわかりませんが、歴史民俗資料館所蔵の古文書「獅子由来並大蔵院起立書」には、17世紀半ばに江古田にやってきた修験僧によって獅子舞が伝えられたと書かれています。17世紀半ばといえば、御嶽遺跡が集落として存続していた時期にあたります。今なお盛んな江古田の獅子舞を、この御嶽遺跡に暮らした人々も楽しんだのかもしれないね。

(つづく)

古文書つづり

明治の絵師が描いた 徳川家歴代将軍の人となり

徳川幕府が倒れ明治政府が発足した、いわゆる「明治維新」から来年で150年目になります。富国強兵、殖産興業をスローガンに西洋化の一步を踏み出した日本は、旧来の体制を変化させていきました。今回は、そのようななか描かれた徳川家歴代将軍の集合画をご紹介します。

資料名は「徳川累代像頭」、作者は幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師の月岡芳年(1839~92)です。3枚の紙面のうち、中央には江戸幕府開祖の徳川家康から5代綱吉まで、右の紙には6代家宣から11代家斉まで、左の紙には12代家慶から最後の将軍15代慶喜までの姿が描かれ、それらをつなぎ合わせると、縦35cm、横70cmほどの一枚の集合画になります。各将軍にはそれぞれ簡単な経歴(生没年、将軍宣下の年など)が書かれ、右端上には歴代将軍の系譜と諡号(死後に贈られる諡)がみえます。

この版画がいつ作成されたのか、実ははっきりとは分かりません。しかし、本資料左端の「大蘇芳年」という号や、版元の「日本はし通り一萬孫」(絵草紙屋・萬屋の大倉孫兵衛のこと)とい

う印字などを勘案すると、明治10(1877)年頃に制作されたものではないかと考えられます。

興味深いのは歴代将軍の描かれ方です。まず中央の紙面をみてみましょう。甲冑に身を包んだ中央の初代家康の姿は、戦国の乱世を終わらせ幕府を開いたことを示すように堂々たるものです。「お囲」など中野と密接な関わりのある5代綱吉(前列左)の傍らには「お犬様」が横たわっています。綱吉といたら「生類憐れみの令」というイメージは、明治時代の絵師にも強烈に残っていたのでしょう。

続いて右側の紙面です。8代吉宗(前列左)は釣り好きだったといわれ、その手には釣り竿が握られています。寡黙だったとされる9代家重(後列右)や、学問好きで読書に耽る10代家治(前列右)など、各将軍の性格や趣味がその特徴として描かれているのは興味深い点です。

最後に左側の紙面には、狩りの出でたちの12代家慶(後列左)、生来病弱だった13代家定(後列右)がいます。さらに前列左には、長州征討などに出陣した軍装束の14代家茂、洋装の15代慶喜(維新後の姿)が描かれています。

古いものが廃され新しいものが良いとされた明治時代初期、人びとが歴代の徳川将軍をどのように捉えていたのか、思いを馳せながらこの資料をみると新たな発見がまだまだあるかもしれません。



「徳川累代像頭」(当館蔵、部分、各将軍名を加筆)

事業報告

各種事業経過

2016年10月～2017年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「名主さん家の経営・文化」 「おひなさま」 「書く道具 ～手書き、複写、印刷へ～」 「人生すごろく」	10/11～11/30 2/24～3/24 4/28～6/4 7/22～8/27
特 別 展	「THE役者絵 国周の世界」 「中野の遺跡新発見伝」 「火消しの世界 鳶の男たち」 「レコードと中野の暮らし」 「鷺宮囃子 ～新寄贈衣裳の紹介～」	9/9～10/9 11/1～12/17 1/19～2/28 5/30～7/21 8/18～9/20
夏 休 み 座 講	体験イベントれきみんサマーフェスタ 「消しゴムでハンコを作ろう」「むかしの暮らし体験」「手すき和紙作り」「ちぎり絵の壁飾り」「むかしのあそび工作」「むかしのおもちゃカメラ作り」「万華鏡を作ろう」「勾玉づくり（4回）」「お楽しみ工作デー（2回）」	7/22～8/31
講 座	古文書講座 講師：笠原綾氏、大友一雄氏 伝統文化体験講座「落語教室」 講師：春風亭柳若氏	10/8～11/12 11/26～12/17
公 開 事 業	秋季「山崎家茶室書院公開」 春季「山崎家茶室書院公開」	10/1～11/30 4/25～5/7
そ の 他	小学校総合学習見学 22校	

埋蔵文化財対応

2016年4月～2017年3月

本町五丁目33番民有地立会 (4/21)	新井四丁目18番民有地立会 (10/25)
本町二丁目32番民有地立会 (4/26)	江古田二丁目13番民有地立会 (10/28)
江古田一丁目25番民有地立会 (5/2)	江原町二丁目31番民有地立会 (11/10)
本町二丁目32番民有地立会 (5/19)	白鷺二丁目38番民有地立会 (11/22)
弥生町四丁目29番民有地1・2・3号棟立会 (5/25)	江古田二丁目12番民有地立会 (11/25)
南台五丁目32番民有地試掘 (6/1) 国庫補助	松が丘二丁目19番民有地立会 (11/29)
南台一丁目5番民有地試掘 (6/30) 国庫補助	中野一丁目33番民有地立会 (12/28)
弥生町三丁目27番民有地1・2号棟立会 (7/15・20)	本町五丁目23番民有地試掘 (1/23) 国庫補助
弥生町六丁目12番民有地立会 (7/25)	東中野五丁目27番民有地試掘 (1/30～2/1)
江原町二丁目31番民有地立会 (8/2)	松が丘二丁目21番民有地A・B・C号棟立会 (2/27)
本町六丁目16番民有地立会 (8/3)	松が丘一丁目34番確認調査 (2/28～3/1) 国庫補助
江古田三丁目3番民有地立会 (8/12) 国庫補助	南台五丁目34番民有地試掘 (3/6～9)
東中野五丁目27番試掘 (8/15・16)	野方三丁目14番民有地立会A・B号棟 (3/7)
弥生町六丁目1番広町遺跡本調査 (9/5～1/6)	江原町二丁目23番民有地立会 (3/15・23)
南台五丁目33番民有地立会 (10/3・6)	上高田五丁目16番民有地立会 (3/22)
本町四丁目13番民有地立会 (10/5)	弥生町四丁目1番民有地立会 (3/24)
弥生町一丁目24番民有地試掘 (10/18)	鷺宮四丁目15番民有地立会 (3/30)
松が丘一丁目11番民有地立会 (10/20)	

寄贈資料一覧

2016年5月～2017年9月 (敬称略：受入順)

資 料 名	点数	氏名・団体名
写真 (大正～昭和)	3	みずの塔ふれあいの家
東京五輪記念野球大会参加章	1	伊藤 勝
火消装束	一式	細井 淳一
五月人形	一式	村田 淳

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

発行年月日 2017年10月1日

編集・発行  山崎記念 中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119